

ダウン症の自分が好き

10月の読売新聞に「ダウン症の自分が好き」というタイトルの記事が載っていました。主人公は、あべ・けんたさん。1987年生まれ。東京都出身。会社に勤めながら「ダウン症のイケメン」と呼ばれ、タレント活動や講演もしているそうです。それは、ダウン症や障がいのある人のことをいっぱい知ってもらいたいからです。彼は、こんなことを知ってもらいたいのだそうです。

- ・ダウン症の自分は好きです。でも、「知的障がい者」といわれるのは嫌です。馬鹿にされているみたいでいやです。「すてき障がい者」と言ってほしい。
- ・2年前に大勢の障がい者が殺された「相模原殺傷事件」は許せないし怒っています。出産前にダウン症かどうかわかる「出生前診断」も反対です。
- ・「障がい者はいなくなった方がいい」という人は、本当の意味で、障がいのある人でも幸せで、楽しく生きていることを、知らないのでしょうか。
- ・ぼくは、毎日元気に楽しく生きています。お笑い番組や絵を描くこと、レスリングをするのが大好きです。仕事後のビールは最高！いつも笑顔です。

私は、この記事を読んで、「障がいのある人は、大変だ」と思い込んでいる自分がいることに気づかされました。けんたさんは「ダウン症の自分が好き」とはっきり言います。幸せで楽しく生きている自分を知ってほしいと言います。

私も、「素敵な自分」をたくさん見つけて、今、生きている幸せをかみしめていきたいと思います。(M.Y)